
償却資産課税事務における
eLTAX の活用について
～電子データを紙に閉じ込めない活用法～

さいたま市

都市戦略本部未来都市推進部 主事
直井 杏子 氏
財政局南部市税事務所資産課税課 主事
鈴木 大翔 氏
財政局税務部税制課 主査
宮内 将行 氏

第28回 固定資産評価研究大会 償却資産課税事務におけるeLTAXの活用について

～電子データを紙に閉じ込めない活用法～

さいたま市

都市戦略本部 未来都市推進部

(前 財政局南部市税事務所 資産課税課)

主事 直井 杏子

財政局 南部市税事務所 資産課税課

主事 鈴木 大翔

財政局 税務部 税制課

主査 宮内 将行

1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

都市戦略本部 未来都市推進部 主事 直井 杏子





(1) さいたま市について



- ・埼玉県の南東部に位置する県庁所在地
- ・平成13年 浦和市・大宮市・与野市の3市合併により誕生
- ・平成15年 全国で13番目の政令指定都市（平成17年旧岩槻市合併）
- ・人口 1,354,430 人 (R7.8.1現在)

市町村別令和5年中人口増加数全国4位！

- ・交通アクセスの良さ 「東日本の玄関口 大宮」
商業地…大宮駅近辺の繁華街、さいたまスーパーアリーナ
都内に通勤・通学する人々のベッドタウン



浦和レッズ・大宮アルディージャの
本拠地でもあります！



3



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(2) さいたま市の償却資産の課税業務について

課税担当職員	11.5人（うち課税実務担当9人）
納税義務者数	36,065人（うち免税点超：16,398人）
課税標準額	742,392,609,000円
税額	10,387,177,000円

当初賦課の時期（1月～4月）は
会計年度任用職員（臨時職員）
を12～13人任用



- ・当初納税通知書発送時期は、5月（R7は5月1日発送）
- ・行政区（全10区）ごとに申告し、免税点の判定をしています。

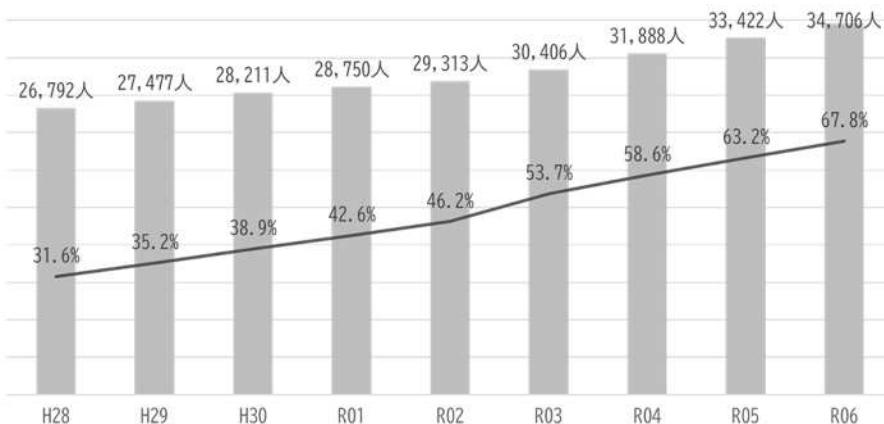


4



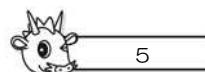
1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(3) さいたま市の電子化率の推移



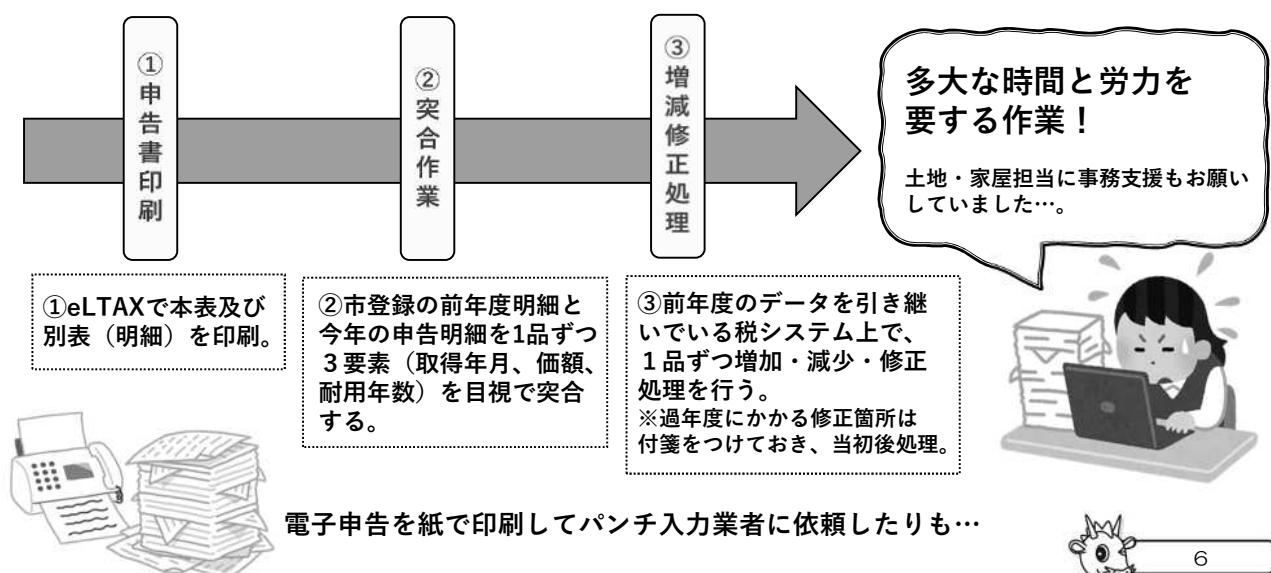
※R3より申告案内(免税点)はがき導入
R3: 15万
R4: 50万
R5: 100万
R6: 140万

電子(eLTAXによる)申告の割合は年々増加しています！



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(4) ツール導入前 電子申告(明細登録)の処理の流れ



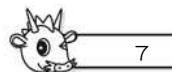
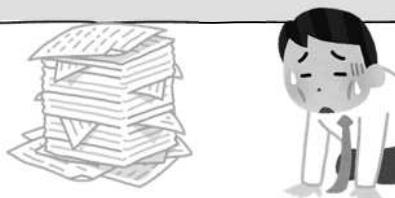


1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(5)電子申告の処理の現状整理（ツール導入前）

当時よりeLTAX→税システムに一括で取込みする仕組み自体はありましたが、明細データの取込みには利用せず、前年度データと突合したうえで引き継いだ前年度データを増加・減少・修正処理していました。

- ・取込み前にeLTAXのIDと税システムの宛名番号との紐づけ作業をする必要がある。
- ・そのまま明細の取り込みができない申告データが多数ある。
(区相違申告、申告内容の誤り(空欄、耐用年数1年、申告対象外資産等))
- ・申告漏れや3要素(特に課税標準額に影響のある耐用年数・取得年月)
変更の把握が難しい。



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(6)課題解決に向けて

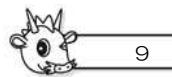
- ・申告の明細データの必要な資産のみ、取込みができるようなもの
- ・eLTAXのIDと税システムの宛名番号との紐づけ作業ができる
もの(IDの変更にも対応できるもの)
- ・前年の明細データと今年の明細データの突合作業を楽にするもの





2. 導入したツールと改善後の事務フロー

財政局 南部市税事務所 資産課税課 主事 鈴木 大翔



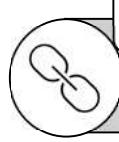
2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(1) 導入したツールについての概要



①データ変換ツール

- eLTAXから抽出したデータを税システムに取込可能な形に変換するツール



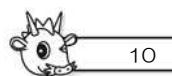
②利用者ID紐づけツール

- 利用者IDと市のシステム管理番号を紐づけるためのツール



③資産突合ツール

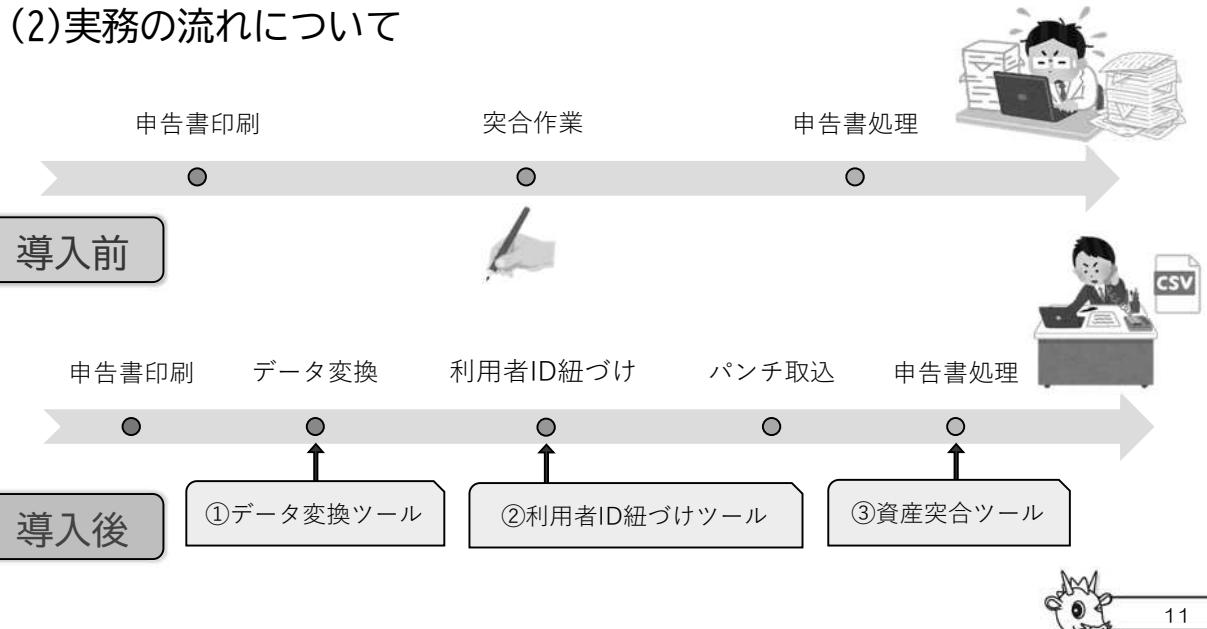
- 事業者の申告資産と市の登録資産を自動で突合するツール





2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(2) 実務の流れについて



11



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(3) データ変換

1. 使用するツール

①データ変換ツール



2. 使用するデータ

eLTAXデータ（申告・明細情報）



税EUCデータ（申告情報）

3. 業務内容

1. 必要なデータのみ抽出
 2. パンチデータとして出力
 - + 「eLTAX確認シート」作成
 - + 「A～Fへ仕分け」
- ※+の部分は別スライドで説明します。



4. 導入効果

データ取込活用促進
入力時間削減
正確な情報登録



12



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(4)利用者ID紐づけ

1. 使用するツール

②利用者ID紐づけツール



2. 使用するデータ

eLTAXデータ（申告情報）

ID紐づけ済リスト



3. 業務内容

1. 上記2つのデータを照合
2. 紐づけ未のみを表示
3. 紐づけ作業
4. 税システムへデータ取り込み



4. 導入効果

紐づけ作業効率化

全てのデータを取り込み可能



13



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(5)申告書処理

1. 使用するツール

③資産突合ツール



2. 使用するデータ

eLTAXデータ（明細情報）

税EUCデータ（前年の明細情報）



3. 業務内容

1. 2つの明細の以下の要素を突合
「数量」「取得年月」「取得価額」「耐用年数」
2. 一致したものは色づけ
3. 一致しなかった資産を職員が確認



4. 導入効果

作業時間の大幅な削減

減少資産の特定

明細情報変更資産の特定

申告もれ資産の特定



14



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(6) eLTAX確認シート

…申告書の情報

…税システムの情報

A		2025 年度		利用者ID		所有者コード	
				利用者ID		所有者コード	
				税システムコード		所有者ID	
所有者	申告書住所・氏名	申告書の住所・氏名					
	システム住所・氏名	税システムの住所・氏名					
		前年度取得額合計	前年前取得	差額			
		税システムの前年前	申告書の前年前	差分			
		1 機器物	0	0			
		2 機械及び装置	0	0			
		3 船舶	0	0			
		4 航空機	0	0			
		5 車両及び運搬具	0	0			
		6 工具、器具及び備品	0	0			
		7 合計	0	0			
		前年中減少					
		前年中取得					
		パンチ送信対象					
		申告書の減少額		申告書の増加額		取得年が昨年の資産合計額	
		申告書の備考					

相手の申告と市の登録が比較できるので、変更があったところが見つけやすい！

15

…申告書の情報

…税システムの情報

仕分け							内容	判定	担当	難易度		
資産	なし							資産なし	A	RPA	易	
	あり	明細登録	なし							電算申告 (サマリ入力)	B	事務支援 会計年度任用職員
			あり	なし	なし	なし	増加	なし	なし	資産増減なし	C	
	あり	前年前ずれ	あり	なし	減少	なし	あり	あり	増加のみ	D	償却資産担当職員	
			あり	なし	なし	あり			なし	減少あり		E
	あり	あり	あり							前年前ずれあり	F	難

16

-36-



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(8)導入した結果まとめ

- ① データ活用により正確な作業と効率化を実現。
- ② 突合機能による大幅な作業時間の削減を実現。
- ③ eLTAX確認シートやA～F仕分けにより作業効率化を実現。

データ活用は業務を楽にするだけでなく、適正課税にも繋がる！



17



3. ツール導入の経緯と今後の展望

財政局 税務部 税制課 主査 宮内 将行



18



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(1) ツール導入の経緯

固定資産税に関する経歴

平成25年 4月 ~ 平成28年 9月 中央区役所 課税課 資産税係

平成28年10月 ~ 令和 2年 3月 財政局 固定資産税課 家屋・償却資産係

令和 5年 4月 ~ 令和 7年 3月 財政局 固定資産税課 家屋・償却資産係

※ 家屋担当 通算9年

私は償却資産の担当ではありません。

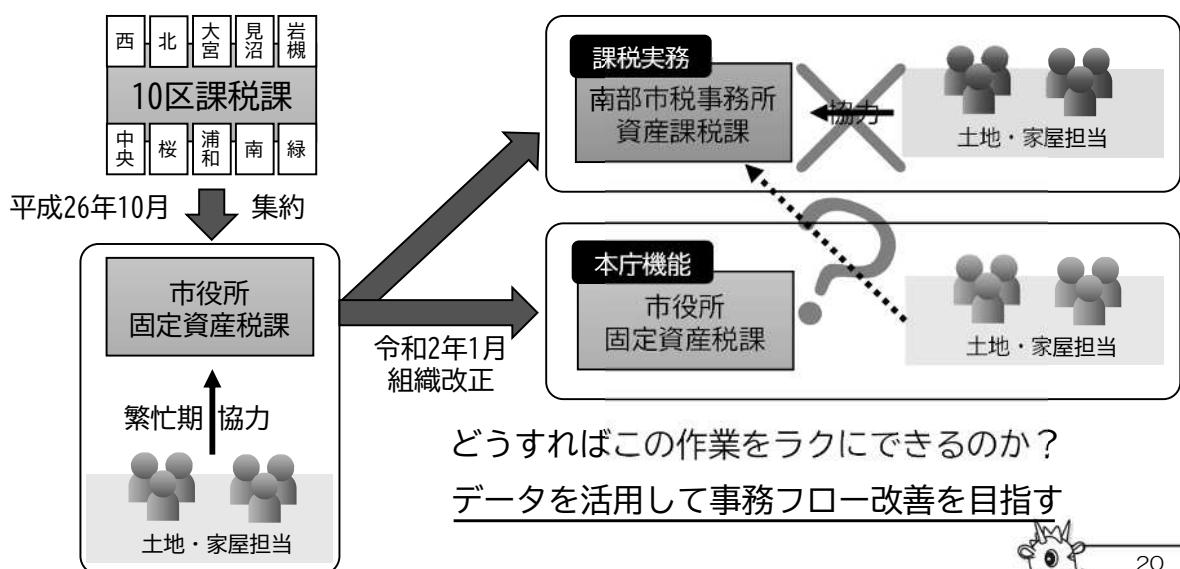


19



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(2) 儻却資産担当の変遷

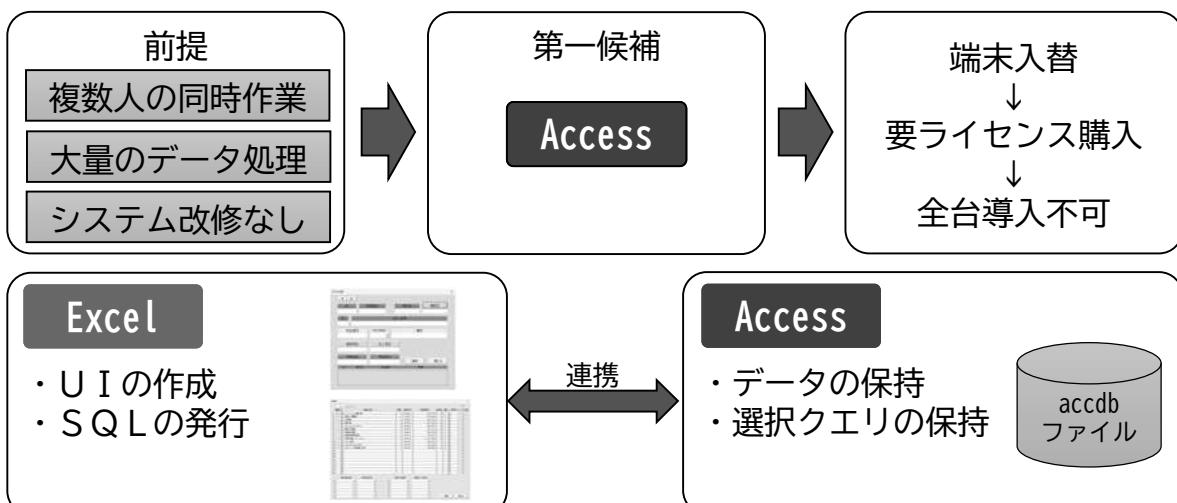


20



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(3)ツールの構成



コストをかけずに複数人同時作業にも耐えうる仕組みを実現

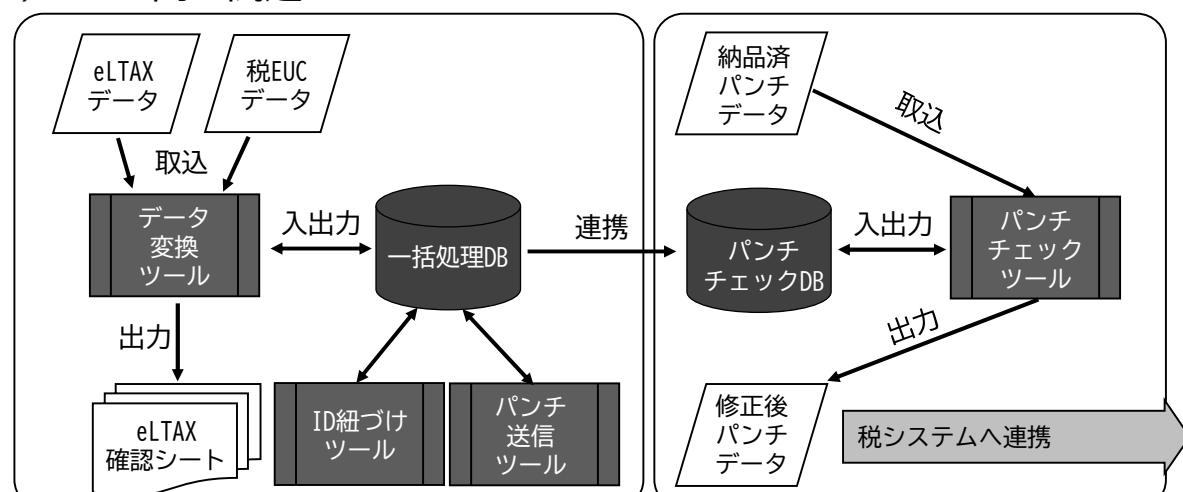


21



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(4)ツール間の関連



eLTAXの申告データをデータのまま活用することが可能に

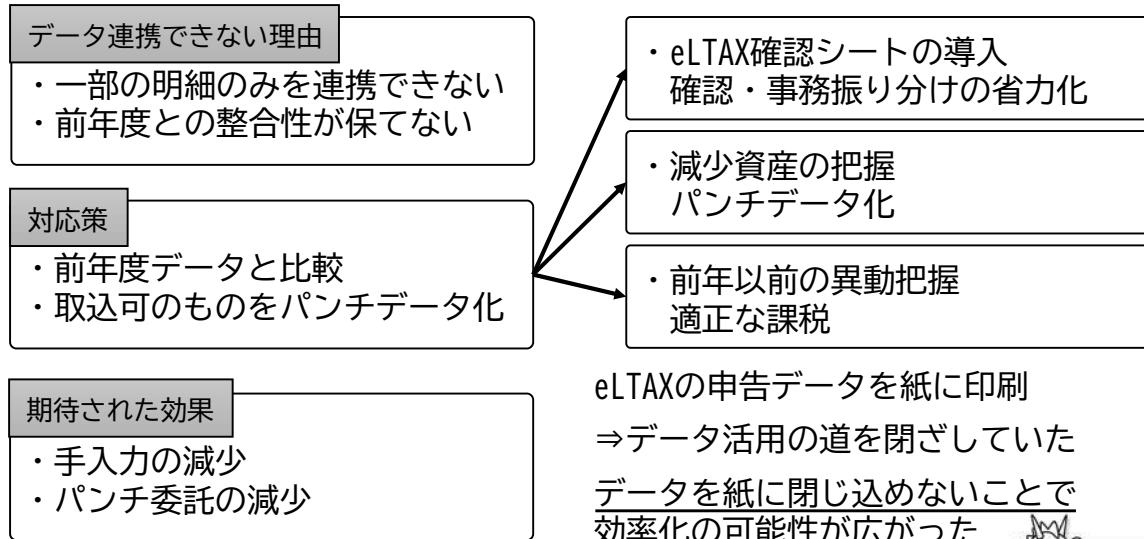


22



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(5) 当初の想定と副次的な効果



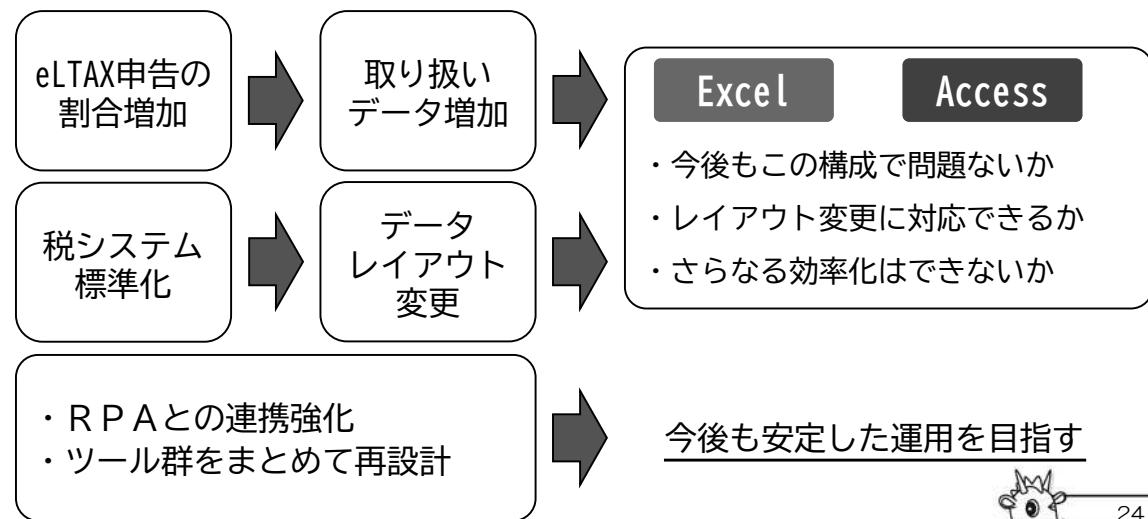
23



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(6) 今後の展望

ツール導入から5年経過



24